

# 中学生が考える野球の楽しさに関する研究

NPO 法人 TSC に着目して

饗庭 隆広 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

担当教員 村田正夫

キーワード：楽しさ 野球 中学生

## 1. 緒言

スポーツをする上で楽しさは大切な要素であり、人それぞれ楽しみ方は様々であると考えられる。本学の卒業生が創設した、NPO 法人 TSC (以下、TSC) は「スポーツをめちゃめちゃ楽しむ」というコンセプトで運営されており、「楽しくなければスポーツではない」と述べている。TSC の選手たちはどのような楽しさを感じているのか、また、楽しさがスポーツにどのような影響を及ぼしているのか、「楽しさ」の意味には多様な捉え方があることからひとつに絞ることは難しい。

そこで本研究では野球という分野から、「スポーツをめちゃめちゃ楽しむ」というコンセプトで運営されている TSC の高島シニアを対象に野球の楽しさを検討する。そこから得られたデータにより、どのような楽しさを持っているのか、楽しさが選手にどのような影響があるのかを各中学校から得られたデータをもとに比較し考察する。

## 2. 研究方法

TSC の高島シニア 27 名を中心に高島市の中学校 5 校の野球部員 81 名を対象に私案で考察したアンケート用紙を用いて調査を行った。アンケート結果から、①達成のような自己強化からくる有能感・統制感 (内発/達成) ②他者との比較からもたらされる有能感・統制感 (外発/達成) ③競技や動きそのものの楽しさ (内発/非達成) ④スポーツ実施の状況や文脈に関連した楽しさ (外発/非達成) の 4 つの categories に分類し、結果を表した。

## 3. 結果および考察

中学校の選手たちは外発的動機づけの割合が高いのに対し、TSC の選手は体を動かす事が好きだから野球をする、または、野球が面白いから練習するといったように、「運動やスポーツ自体の魅力やおもしろさに動機づけられている状態」の選手が多いことがわかった。これらの選手は、スポーツ自体の楽しさや技能の上達による満足感とその報酬となっていることから、外発的動機づけと比較すると運動やスポーツに対する動機づけとして望ましいと考えられる

## 4. 結論

TSC の選手たちは中学校の選手と比べて内発的動機づけによってプレーしている事がわかった。基本動作である打つ、投げる、走る、捕るといったことを軸に、さまざまな場面での駆け引きなどのプレー自体に楽しさを見出している。また、以前はナショナリズムのもとで、スポーツに楽しさ以外の付加価値、精神修養や教育効果などが重んじられていた。しかし、今回の研究でも明らかになったようにこれまで以上に、スポーツ本来の楽しさを重視する考え方が普及しつつある。

## 5. 参考文献

- ・平尾誠二 金子壽宏 (2010) 「型破りのコーチング」PHP 研究所
- ・佐山和夫 (2000) 「野球はなぜ人を夢中にさせるのか-奇抜なゲームのルーツを訪ねて-」河出書房新社

(他)

